

知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）



設 置 …… 知立市
(人口：70,501 人)

開 館 …… 2000 年

運 営 …… 一般財団法人
ちりゅう芸術創造協会

ミッション・課題など

■ ミッション

市民の芸術文化振興と福祉の向上を図る。

■ 運営目標

地域文化の向上

地域の魅力の向上

住民の文化活動の推進

■ 課題・障害

広報、宣伝の拡充

他団体等との協力・連携の推進

地域住民ニーズの把握

■ 平成 30 年度 全国インターネット調査結果から

区分	認知度 (%)	訪問度 (%)	リピート率 (%)
全国	2.9	1.1	0.6
知立市	94.4	86.1	77.8

(2018 年 9 月実施 | 全国 20,000 サンプル)

・人口は平成 27 年国勢調査結果に基づく

・「運営目標」「課題・障害」は、協力劇場へのアンケート調査及びヒアリングからの整理

知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）

はじめに

知立市文化会館は、2000 年（平成 12 年）に愛知県知立市に誕生した総合文化施設である。この地が、「池鯉鮒（ちりゅう）宿」と呼ばれていたことに由来し、「パティオ池鯉鮒（以下「パティオ池鯉鮒」という）」の愛称で呼ばれる。管理運営は、一般財団法人ちりゅう芸術創造協会（以下、「協会」という）が担っている。

1 設立経緯と概要

（1）設立経緯



図 1-1 外観 1（掲載画像は全て劇場提供資料）



図 1-2 外観 2

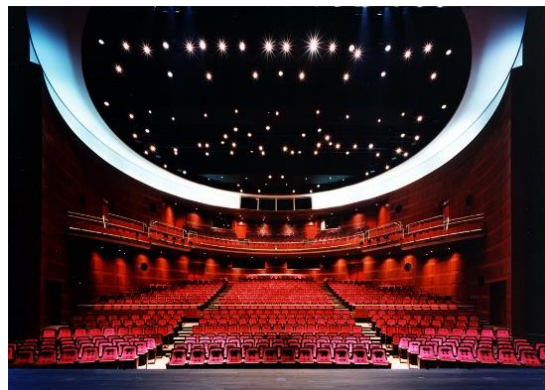


図 1-3 かきつばたホール内観

知立市は、愛知県中央部に位置し、古くから主要な国・県道、名鉄本線、三河線が交差する交通の要衝であり、知立神社の門前町として発展、馬市や木綿市も盛んで、江戸時代には東海道 39 番目の宿場町「池鯉鮒宿」として栄えた歴史を持つ。1970 年（昭和 45 年）に碧

海郡知立町が市制を施行し、知立市が誕生、現在の人口は約 72,479 人¹である。

かつて農業と商業のまちであった知立市だが、1960 年代に市の施策として大規模団地が誘致されることになり、住宅地の整備も進められるようになった。ここで、文化と教育が市民生活にとって重要になり、ニーズも高まった。しかし、当時、知立市には文化、芸術の鑑賞や発表の専用施設がなく、公会堂をはじめ、1978 年（昭和 53 年）建設の中央公民館、その後各地で建設された公民館が市民文化活動の拠点となっていたが、設備の不完全さや、利用条件規制の煩雑さなどにより、十分な文化活動に適していなかった²。そこで、市民レベルの活動を活性化し、地域の文化振興を図るために、大規模ホールを備えた専用の文化施設が求められるようになった。1970 年（昭和 45 年）に発足した地元文化協会を中心とする文化活動の高まりを受け、知立市の市制 30 周年を記念して、2000 年（平成 12 年）に総合文化施設としてパティオ池鯉鮒が開館したものである。それまで劇場を持たなかった知立市における、市民待望の文化施設の誕生であった。

パティオ池鯉鮒では文化・芸術の発表の場としてのみならず、文化創造及び情報収集・発信のセンターとして「交流の場」を基本理念とし、知立市の目指す「活気あるみどりゆたかな交流のまち」実現に向けて、知立市の文化の象徴となりうる空間として、また、伝統文化を継承するとともに、新たな文化創造の役割を担う交流の場として期待されている。

さらに知立市の現在においては、外国人市民の定住化と増加が進み、現在外国人人口比率は愛知県で 3 番目に高い³。そのようななか、パティオ池鯉鮒においても民族性の違いを積極的に受け止めながら、さまざまな文化コミュニケーションが行われるようになり、多文化共生を含めた共生社会の実現など地域的な課題を受け止める役割をも内包しつつある。

構想時より積極的に市民が参加していることが、パティオ池鯉鮒のひとつの特徴である。開館当初からは、協会が関わる事業を支援するとともに、自主企画事業を遂行するためのホールボランティア「パティオ・ウエーブ」が活躍している。フロント、広報、企画制作、舞台技術、舞台美術の全国的にも珍しい 5 つのセクションに分かれ、受付や客席案内、舞台演出の支援（小道具づくり、舞台照明ほか）などを行うほか、パティオ池鯉鮒の文化情報誌「Patio」の作成支援、ボランティア自らの公演(イベント)の企画・開催などを行っている。

（２）施設

パティオ池鯉鮒は、文化芸術活動の拠点として、個々人、地域社会に貢献することを使命とし、文化芸術への取組は生涯学習の観点から実施され、「知立市生涯学習宣言⁴」の基本理

¹ 2020 年（令和 2 年）現在 知立市ホームページ

² 2018 年度（平成 30 年度）文化庁事業ワークショップでの劇場提供資料

³ 2019 年（平成 31 年）現在 愛知県ホームページ

⁴ 「知立市では、生涯学習に係る活動を実践する場を市内全域に提供し、市民一人ひとりが生涯学習に意欲を高め学習活動への参加を促し「生きがいふれあい 発見 知立の生涯学習」の理念に基づき、一層の生涯学習推進を図ることを目的としています」2001 年（平成 13 年）生涯学習都市宣言。

念のもと、芸術文化と社会教育を行うコミュニティシアターとして運営されている。

施設内には、かきつばたホール（1,004名）及び花しょうぶホール（293名）の2つのホールのほかギャラリーなどを備えており、かきつばたホールは舞台を中心に円形状に配置された客席が特徴的なプロセニウム形式で、コンサートから歌舞伎まで多彩な舞台芸術に対応している。

2 事業方針・組織・活動内容

（1）事業方針

知立市では、2018年（平成30年）に知立市文化芸術基本計画を施行し、現在知立市文化芸術推進会議のもと、文化芸術推進基本計画の策定が進められている。協会は、国の文化芸術基本法及び劇場法などの関連法規をもとに「ミッション」「ビジョン」を独自に作成し各事業を実施している。

協会は、1999年（平成11年）に設立された。翌年にパティオ池鯉鮒が開館、以後、会館のソフト運営を受託し、2006年（平成18年）からは同協会が指定管理者として、その管理運営全般を担っている。

設立時には任意団体であったが、「文化・芸術及び教育に関する事業を通じて、文化を享受し、文化を育み、文化を創り出すことができる環境づくりを行うことにより、豊かな伝統文化の継承及び発展と新たな地域文化の振興を図り、もって真に豊かさの実感できる地域社会の形成と進展に寄与すること」を目的として、2014年（平成26年）に一般財団法人化、現在は、指定管理者など審査委員会による所定の書類審査により、非公募・単独指名の指定管理者として、5年間の指名を受けている。

（2）組織

協会の組織図・業務分担を図2-1、パティオ池鯉鮒におけるスタッフ数を表2-1に示す。

パティオ池鯉鮒では芸術監督制を取っており、開館から指定管理者制度に移行するまでは、元NHKのエグゼクティブ・プロデューサーであった専門の芸術監督を配置、指定管理者に移行してからは、地元の民間企業経験者で文化活動をしている人材が事務局長に就き、芸術監督に相当する職務を兼任するようになった。また、事業担当職員は、公共施設の職員として、地域と交わり人と人を繋ぐファシリテーターという意識を大切にする観点からの職員教育がOJTで実施されている。

このほか、開館1年前に結成された既述のホールボランティア「パティオ・ウェーブ」が、市民によるサポート体制を整え、市民目線・市民発想で会館の活動を支え続けている。2004年（平成16年）より、中高生とその保護者を対象に、ヤング・パティオウェーブを企画、公演の手伝いをきっかけに、ホール公演の鑑賞に親しみ、新たな出会いや交流を育むことも推進されている。

表 2-1 パティオ池鯉鮒スタッフ数など

	スタッフ数	組織
2014 年度 (平成 26 年度)	19 人	特別職（理事長、事務局長）各 1 人 正規職員（一般職員）4 人、 非正規職員（特別任用職員）7 人 臨時職員 6 人
2015 年 (平成 27 年度)	20 人	特別職（理事長、事務局長）各 1 人 正規職員（一般職員）6 人、 非正規職員（特別任用職員）5 人 臨時職員 7 人
2016 年度 (H28 年度)	19 人	特別職（理事長、事務局長）2 名 正規職員（一般職員）7 人 非正規職員（特別任用職員）3 人 臨時職員 7 人
2017 年度 (平成 29 年度)	19 人	特別職（理事長、事務局長）2 名 正規職員（一般職員）7 人 非正規職員（特別任用職員）3 人 臨時職員 7 人
2018 年度 (平成 30 年度)	19 人	特別職（理事長、事務局長）2 名 正規職員（一般職員）7 人 非正規職員（特別任用職員）3 人 臨時職員 7 人

出典：劇場提供資料

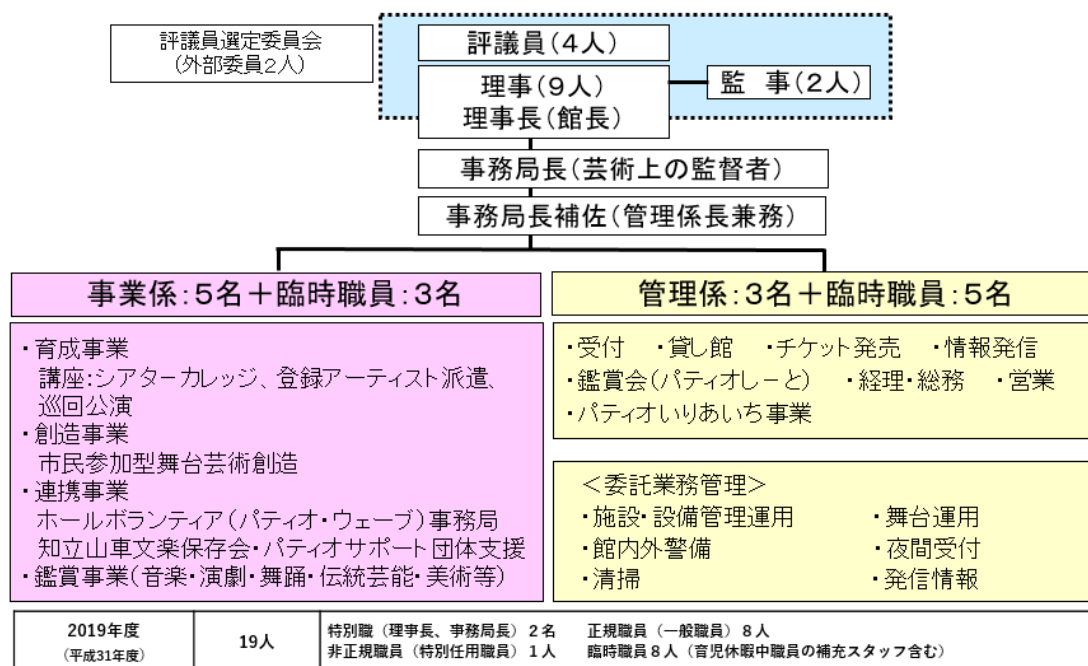


図 2-1 一般財団法人ちりゅう芸術創造協会組織図（2019 年度現在）

（1） 活動内容

協会は、上記目的を達成するため、以下の事業を行っている。

1）文化・芸術の振興に関する事業の企画及び実施

鑑賞事業（著名人コンサート企画、多世代を意識した音楽・演劇・舞踊鑑賞企画など）、人材養成事業（講座、ワークショップ、愛知県立芸術大学オペラ公演など）、普及啓発事業（ふれあいコンサート、こどもアートふれあい事業など）

2) 文化・芸術に関する情報の収集及び提供

情報誌発行、他劇場の公演情報チラシ設置、その他会館運営に関するアンケートの実施とフィードバックなど

3) 知立市から受託して行う文化・芸術の振興に関する事業及び知立市文化会館の管理及び運営

文化芸術に関する受託事業（コンサートデリバリーなど）及び指定管理業務全般（施設管理業務、舞台管理業務、設備の保守点検など）

4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 財政状況

事業経費は、施設利用料金・チケット収入及び補助金などで賄われており、知立市からの指定管理料は全て施設管理及び協会運営に充当している。

(1) 収入及び支出

2014 年度（平成 26 年度）から 2018 年度（平成 30 年度）までのパティオ池鯉鮒における財政状況を表 3-1 に示す。総収入は 311,437 千円、指定管理料は 256,997 千円で、自主事業収入 29,807 千円のほか、国からの補助金及び民間助成団体からの助成金をあわせて 10,816 千円獲得した。

表 3-1 パティオ池鯉鮒収入 (単位：円)

	2014 年度 (平成 26 年度)	2015 年度 (平成 27 年度)	2016 年度 (平成 28 年度)	2017 年度 (平成 29 年度)	2018 年度 (平成 30 年度)
収入	352,435,487	312,662,995	313,175,204	314,787,744	311,437,704
事業収入	288,489,982	281,070,170	279,424,336	281,540,644	281,630,718
自主事業収入	63,945,505	31,592,825	33,750,868	33,247,100	29,806,986
補助金	29,027,349	6,296,520	12,553,103	13,032,932	10,815,815
委託料など	256,577,000	258,693,000	256,693,000	256,621,000	256,997,000

出典：表 3-1、3-2、3-3 劇場提供資料

注：収入 収入総計

事業収入 自主事業以外の収入（利用料金及びその他収入）

収入総計－自主事業収入

自主事業収入 チケット収入、講座受講料収入など、補助金も含む

補助金 国、民間助成団体助成金

委託料など 指定管理料

知立市の「2017 年度（平成 29 年度）指定管理者評価⁵」によると、市が支払っている指定管理料は、65%が施設維持管理のための委託費及び光熱費、26%が人件費である。一方、自主事業は入場料及び施設利用料などを収入源として実施し、コンサートを中心に、地域に根ざしたさまざまな取組みを行っていることが評価されている。なお、施設利用者が前年度比較で増加していることや、稼働率が低い施設についても、利用拡大の取組みにより、前年度より増加していることなどが評価されている。なお、新たな利用者の獲得やサービスの充実については、引き続きの努力が求められている。

（２） 開館日数・入場者数

2014 年度（平成 26 年度）から 2018 年度（平成 30 年度）までのパティオ池鯉鮒における開館日数及び入場者数を表 3-2、事業・公演回数及び自主事業の内訳について表 3-3 に示す。

表 3-2 パティオ池鯉鮒開館日数及び入場者数

	2014 年度 (平成 26 年度)	2015 年度 (平成 27 年度)	2016 年度 (平成 28 年度)	2017 年度 (平成 29 年度)	2018 年度 (平成 30 年度)
開館日数(日)	306	306	306	306	306
入場者数(人)	206,621	201,107	192,319	200,065	219,652

表 3-3 パティオ池鯉鮒公演回数など

	公演回数/自主事業
2014 年度 (平成 26 年度)	公 演：20 事業/84 公演（内共催：6 事業） 講 座：3 講座受託事業：3 事業
2015 年 (平成 27 年度)	公 演：25 事業/64 公演（内共催：6 公演）講座：3 講座 受託事業：4 事業
2016 年度 (H28 年度)	公 演：27 事業/87 公演（内共催：7 事業） 講 座：4 講座受託事業：4 事業
2017 年度 (平成 29 年度)	公 演：25 事業/79 公演（内共催：3 事業） 講 座：7 種講座・ワークショップ 受託事業：3 事業
2018 年度 (平成 30 年度)	公 演：24 事業/80 公演（内共催：5 事業） 講 座：6 種講座・ワークショップ 受託事業：4 事業

⁵ 「2017 年度（平成 29 年度）指定管理者評価」（2018 年（平成 30 年））
<http://www.city.chiryu.aichi.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/5/29saisyuhyouka.pdf>

4 今後の課題

パティオ池鯉鮒には、地元の伝統文化「知立の山車文楽とからくり」を継承するとともに、新たな市民文化創造の場としての役割を担い、市民すべてが参加し、交流し、楽しみ、創造する場所としての役割が期待されている。その役割に応えるため、日々努力を続けながらもいくつかの課題に直面している。協会としては「劇場法」の指針、趣旨、また、地域の文化芸術や組織の歴史的背景を踏まえて、今後の取組を進めたいとしており、特に以下の視点を考慮することとしている。

- (1) 会館が企画、提案する文化芸術事業に対する顧客の創造が不十分である
 - 1) 鑑賞者の固定化、高齢化により集客力が伸びていない
 - 2) 社会包摂事業への理解活動や行政・関係団体との連携が不十分である
 - 3) 会館へ来ない市民に対するアプローチが創客に直接結びついていない
- (2) ホールボランティア及び会館利用文化団体の高齢化
 - 1) 会館を応援するボランティア団体所属者の高齢化が進み、参加者が限定的
 - 2) 地元文化団体の高齢化が進み、後継者の育成が伴わず文化活動が減少傾向にある
- (3) 施設の老朽化対策としての「大規模改修計画」が未整備となっている
 - 1) 地震対策（特定天井（吊り天井）改修など）の備えが不十分である
 - 2) 音響・照明設備の老朽化により貸館利用率が頭打ちになっている
 - 3) 障がい者、外国人に使い易い施設整備が不十分である（オストメイト設置、外国語対応）

このほか、現場からの課題は以下のように整理できる。

① 人材の確保・育成

ここ数年の間で、中堅・若手の離職が相次ぎ、①安定した組織、②経験者での管理・運営の継続と拡大が必要とされている。組織強化のため、嘱託職員（特別任用職員）の正規雇用の促進や、正規雇用での採用募集などを進めているが、離職の背景にある、ワーク・ライフ・バランスの改善や、人間関係を含めた職場環境改善への取り組みについても今後対処していく必要がある。

② 事業展開

事業面においては、著名人コンサートなどの公演開催の要望が根強くあり、限られた時間と予算の中で地域と連携しながら、当市の状況に即した会館の独自性ある事業活動や文化的広場の拡充を図ることが課題とされる。

③ PDCA サイクルの実現

事業実施にあたっては、計画と実行を繰り返すに留まっており、今後は、実施後の評価とこれに基づく改善を含めた PDCA サイクルを機能させることも求められている。

④ 高齢化・多文化への対応

市内には、高齢化と 5,000 人を超える外国人労働者の転入によって、小学校の全校児童約 300 人のうち 6 割弱が外国籍、出身は 10 ヶ国以上に及んでいるという団地地域があり、多様な文化背景を持つ人々や地域が抱える課題に対して、どのように対応していくかも今後の課題となっている。